

焼津市 浜通り

地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動

メンバー

(スポーツプロモーションコース) 3年・・・大石凜里花 大澤美潤

(アートマネジメントコース) 3年・・・宮城羽那

指導教員：○教授 太田隆之 教授 国京則幸

フィールドワーク実施協力者

NPO法人「浜の会」・焼津市観光協会・焼津水産高校・ゲストハウス「帆や」

地域概要

浜通りは、駿河湾沿岸に沿った街道を中心に形成された、南北に1kmほど続く集落である。集落内には、かつて運河としても機能した堀川が北へと流れている。浜通り エリア内は、北浜通・城之腰・鰯ヶ島の3地区に分かれおり、魚商人が築いてきた沿岸部特有の伝統的な家屋や、小路などの焼津市の歴史と文化が豊富にある地域である。

例として、明治時代に怪談小説で名の知れた小泉八雲かが滞在し、多くの作品をこの地に残した。また、歴史的資産だけでなく、地区ごとの夏祭りや、市民の皆さんが描いた行灯が夏の夜を照らす「あかり展」などの伝統的な行事が多く存在しているが、人口減少や少子高齢化の影響から、参加者が減少傾向となっており、存続が危惧されている。

また、浜通りの町並みの保存や活性化を目指して、行政と住民が連携し浜通り活性化フォーラムなどの活動が行われている。

これまでの活動

①浜通りでの「あかり展」の準備・開催

準備期間では行灯を制作し、当日はその点検や同時開催されたイベントの呼びかけ・会場設営を行なって回った。実際に長期間参加することによって、「あかり展」に臨む地域の皆さんの取り組む姿勢や、その思いを把握するとともに、当日の人出の多さや賑わいを体感した。

②焼津市内外の若者との交流と意見・情報交換

9月に「わたしの商店街クエスト」の最終報告会と、11月に「わかものまちサミット 2023」に参加した。

浜通り地区では市内他地域よりも早く少子高齢化が進んでいることを踏まえてこの企画に参加することで、各地の事例やそれらの意義や課題についてや、こうしたことを可能にするための団体や組織・支援など、いくつかの条件がありうることを把握した。

③「海業振興モデル地区」である沼津市戸田漁港・地域の取り組みの調査

浜通りでの漁業やその関連産業をベースにした活性化の可能性を検討する上で、水産庁が取り組んでいる「海業」の振興を参考にするために、「海業」のモデル地域に指定された戸田漁港・地域でお話を伺った。

戸田地域では今の浜通りと同じく、人口減少・若年層の流出問題に直面し、主要地場産業である漁業にも影響が出たという。今回はその状況を打破するために取り組んだ具体的な内容や成果と課題についてご回答をいただいた。



2024年度の活動について

①「浜通りフェスティバル」への参加・運営

今回、初の試みであった「浜通りフェスティバル」。浜通り地区において「あかり展・あんどんマルシェ」だけの集客とせず、継続的に人の集まる場所となる新たな昼間イベントを実施し、地域の魅力発信を行う目的で開催された。当日は、主に車の指示誘導を行いながら、自分たちも浜通りフェスに参加した。「浜通りフェスティバル」では、あかり展同様多くの人々が訪れており、売店や体験プログラムを楽しんでいる様子であった。体験プログラムは、食品サンプル作りや竹行灯作りなどバラエティーに富んでいる。大人も子どもも楽しめる内容が揃えられており、親子連れや友達同士で体験に参加する様子を多く見ることができた。「浜通りフェスティバル」を通し、イベントを行う際の集客率の高さを再認識した。浜通りに住む人達だけでなく、他の地区からも多くの方が訪れていたことを把握した。

②「海業振興モデル地区」である地頭方漁港の取り組みの調査

漁村では人口減少や高齢化の進行が深刻化していることがわかった。これにより活力の低下が著しく、国内外からの多様なニーズに応えることで地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことを期待し計画が行われていることがわかった。マリンスポーツやマルシェなど、魅力的な取り組みが多くあること、魅力的な体験の場が多くあることに大きな価値を感じた。課題としては、販売するものの大部分が鮮魚であることが挙げられていた。加工する場が近くにない為捌いた状態など、そのまま食べられる状態での提供が難しい。また、市民の漁業・魚離れや漁業者の減少など浜通りと同様の問題点を抱えていることもわかった。今回の調査は、賑わいの拠点を作ることの重要性について再認識する機会となった。

③「あかり展」への参加

あかり展に参加し警備などを行う中で、様々な年代があかり展に参加していることが確認できた。浜通りを見回してみると、多くの人々が、会場に設置された大きな行灯にイラストや文字を描いていた。飾られた行灯を眺めるだけでなく、当日に参加した人も楽しめるととても良いアイデアだと感じた。この行灯への書き込みは小さな子供が主ではあったが、幅広い年代の方が楽しんでいた。実際に書き込んでみたが、自分も一員になったように感じられる面から、参加者の浜通りへの愛着につながる良い案であると感じた。目当てとしては、焼津ならではの魚の加工品を買いに来る人や自分が描いた行灯を観に来る人が多かった。多くの行灯が並んでいる様子は非常に美しく、立ち止まって写真を撮る様子も多く伺えた。



これまで取り組んできたフィールドワークを振り返って

【宮城羽那】

今このフィールドに所属している学環生は全員が焼津市出身ということもあり、地元の人間視点での意見を出すことが多くありました。焼津浜通りは現在の焼津市の漁業文化を形成した歴史的に重要な拠点です。そのような場所でフィールドワークを行うことで大学までに学んできた地元のことを活かしながら活性化に繋げることができ、お世話になっている大切な場所に貢献することができたと思います。焼津浜通りフィールドは今後学環外で活動が続けていくことになっており、その内容は漁業以外にも広がっていくことになっています。これまで私たちに活動に加え、より沢山の魅力が受け継がれていって欲しいと思います。

【大澤美潤】

地元である焼津市で行ったフィールドワークですが、新たな魅力を発見する良い機会となりました。馴染みのある土地でしたが実際に活動し地域の方と関わる中で、焼津の歴史や文化についても知る機会がありました。知識がついたことで、自分の地元をより大切に思うようになりました。現在、人口減少や少子高齢化が問題になっているものの、浜通りで開催されたイベントでは驚くほどの盛況を誇っていました。水産業など他にはない焼津ならではの強みは素晴らしい財産であると思います。これからも魅力を発信し、より多くの方々に焼津の魅力を知っていただきたいと強く思っています。

【大石凜里花】

フィールドワークを始めた当初、私は歴史的な街並みや建造物、「波除けの堰」や「小路」といった有形の遺産を中心にその魅力を捉えていました。しかし、活動を重ねる中で、その魅力は目に見えるものにとどまらず、目に見えない部分にも深く息づいていることを実感しました。例えば、「あかり展」や「浜通りフェスティバル」などで地域の方々と触れ合い、その笑顔と共に語られる浜通りの魅力を聞いていると、ここに宿る強い愛情があるからこそ、この土地の文化や魅力は守られ、継承されていくのだと強く感じました。有形無形、物質的・精神的な両面にわたる地域の魅力を広く伝えたいという思いから、私はフィールドワークに取り組んできました。少しでもその意義を果たすことができたのであれば、幸いです。